2012 年 6 月 1 日発行

日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics

Newsletter No. 15

Maxillofacial Prosthetics

発行人　石上友彦　　編集　広報委員会

事務局　〒135-0033　東京都江東区深川 2-4-11　一ツ橋印刷（株）　学会事務センター内

Tel：03-5620-1953　Fax：03-5620-1960

E-meil：max-service@onebridge.co.jp

舌接触補助床（PAP）ガイドライン Minds 掲載！

ガイドライン作成委員会

委員長　**小野　高裕**

本学会員の皆様には改めてご説明する必要もないことですが，舌接触補助床（Palatal Augmentation Prosthesis = PAP）は，口腔容積と舌運動との不調和を口蓋形態を最適化することによって代償する顎顔面補綴領域において重要な装置の一つです．そのガイドラインである「摂食・嚥下障害，構音障害に対する舌接触補助床（PAP）の診療ガイドライン」が，本年 2 月 29 日に公益財団法人日本医療機能評価機構が運営するインターネット医療情報サービス Minds に掲載されました．現在 500 以上あると言われているわが国の医療系ガイドラインのうち，厳密な評価基準によって選定された 2 割程度が Minds に掲載されていると思われますが，本ガイドラインは歯科系では 8 番目の掲載になります．

私は，2007 年に日本歯科医学会が公募した「摂食・嚥下障害，構音障害の口腔内補助装置のガイドラインに関するプロジェクト研究」に応募したことから，ワーキング・グループのメンバーの一人として，PAP の診療ガイドライン作りに関わらせていただきました．本研究は文献調査と症例調査の二本立てで行われ，まず PAP の効果と限界，検査・診断方法，製作方法，調整方法に関する 9 つの Clinical Question を立て，それぞれについて文献エビデンスを整理するとともに，その不足を補うために各 CQ に関する臨床統計を示し，最終的に PAP による治療のスタンダードを示そうというのが狙いでした．文献は内外のものを合わせて約 60 編が集まり，その多くは頭頸部癌の症例報告でした．当然のことながら，その中には本学会誌「顎顔面補綴」掲載論文をはじめ，本学会会員による多くの報告が含まれています．症例記録については各施設のご尽力により 180 件が収集でき，その 75% が頭頸部癌症例，残りが脳卒中や神経筋疾患という割合で，摂食・嚥下障害への取り組みが高まる中で，PAP の適用疾患の幅が広がっているという印象でした．

最初のガイドラインの素案がワーキング・グ

ループから日本歯科医学会へ提出されたのは2009年の4月でしたが，それがちょうど新規保険医療技術提案のタイミングと合致し，2010年4月の改訂で「舌接触補助床」が保険医療に収載されたことはうれしい驚きでした．その一方で，診療ガイドラインを完成させるために，ブラッシュアップというイバラの道が待っていました．この作業は私が所属する日本補綴歯科学会のガイドライン委員会に引き継がれ，文献の追加，デルファイ法による各CQの最終推奨度決定，外部評価，AGREE評価など，委員会の総力を挙げて幾多のハードルを乗り越えた結果，Mindsへの掲載許可に至りました．もちろんMinds掲載がガイドラインのゴールではなく，定期的な改訂やさらに開かれた医療情報であるためのさまざまな取り組みが求められます．本学会の「顎顔面補綴診療ガイドライン」も目下Minds収載を目指して委員会でブラッシュアップを行っております．これまでの経験から今が一番しんどい時期ですが，間もなく夜明けの光が見えてくるものと思います．

こうした長い過程に関わった一人として思うことは，ある治療法に関して「EBMに基づく開かれた医療情報」を作成することは，いかに厳密（かつ面倒）な形式を踏まなければならないかということです．しかも，出来上がったガイドラインに書いてあることは，経験ある臨床家にとっていわば当たり前のことです．当たり前のことを言うのに，こんなに手間ヒマをかけてご苦労さん…と自嘲したくなることもありましたが，ガイドラインを作るということはある意味専門分野の「棚卸し」のようなもので，先人から積み重ねられてきたことを見直す機会になると思います．そして何より大事なことは，今後どのような臨床研究が必要かを考える指針になるということでしょう．どうか一度Mindsのガイドライン検索から「歯科・口腔」のカテゴリーで，「摂食･嚥下障害，構音障害」を選択して，PAPのガイドラインをご覧下さい．各CQの解説と引用文献の構造化抄録は，PAPに関する文献検索，論文作成において非常に便利です．そして，PAPを必要としながら治療を受けることができない患者さんを一人でも少なくするために，本ガイドラインが広く臨床家に活用されることを念じる次第です．

平成23年度優秀論文賞受賞者の声

栃原義之
恵佑会札幌病院

『口腔癌術後患者の咀嚼機能評価　―下顎骨区域切除症例について―』
（顎顔面補綴34巻1号）

この度は，平成23年度優秀論文賞をいただきまして誠にありがとうございました．選考していただいた先生方，丁寧な査読をしていただいた先生方や編集委員の方々にも心よりお礼申し上げます．当学会に入会後，初めて投稿した論文でこのような評価をいただけてとてもうれしいです．

この論文は，私が現在の職場で行ってきた口腔癌術後患者の下顎顎補綴に対する機能評価をまとめたものです．しかし機能評価といっても臨床の現場では簡便な手法しか行う余裕がなく，デンタルプレスケールによる総咬合力測定と咀嚼スコア算定を治療の合間をぬって行い，これを継続してデータを積み重ねてきただけです．常々このデータをいかに咀嚼機能評価にむすびつけるかが問題だと感じていました．大阪大学の小野先生からご助言をいただいてから多変量解析を行う様になり，集めたデータを統計分析する事で今回の論文にまとめることができたものと考えています．私の職場では，口腔外科医から口腔癌患者の術後顎補綴依頼がしばしばあるため，統計処理に必要な症例数を確保しやすいという背景もあります．あとは統計解析の結果をどのように臨床にむすびつけ，フィードバックさせるかがこれからの課題だと痛感しています．これからも顎顔面補綴学会の諸先生方からの貴重なご指導，ご助言をいただけると幸いです．ありがとうございました．

関連学会報告

第13回日本口腔顎顔面技工研究会学術大会

第13回日本顎顔面技工研究会学術大会が，平成23年10月29日（土）に私，佐賀大学医学部歯科口腔外科山口能正を大会長として佐賀大学医学部大講堂で開催した．今回は，「発想力の開発」という大会テーマで，特別講演2題，宿題講演1題，協力口演1題，一般口演10題で，総参加者は230名余りで盛会であった．

特別講演1は，後藤昌昭先生（佐賀大学）が「顎顔面補綴治療における歯科技工士の役割」というテーマで，顎顔面補綴治療や顎顔面インプラント治療を行う上での技工士の役割について語られた．特別講演2は，笠茂享久先生（笠茂歯科医院）が「重力と咬合－重力に支配されている身体－」というテーマで，人体に加わる重力と重心線の関係から咬合について語られた．宿題講演は，畠中利英先生（奈良県立医科大学付属病院）が「口腔外科における三次元実体モデルの活用」というテーマで石膏系三次元実体モデルを使っての手術シミュレーションについて語られた．協力口演では，重松正仁先生（佐賀大学）が「日本人の下顎骨形態：その変遷と問題点」というテーマで，日本人の起源と頭蓋骨の変化について語られた．

一般口演では，口唇プロテクター，放射線治療補助装置，シーネ，義歯，教育，創部保護装置，エピテーゼ，TC，インプラントと多岐に亘って技工士が携った症例や研究について語られた．

今回，大会テーマを「発想力の開発」としたが，今の技工業界では，歯科技工士を志望する学生数の減少などで，専門学校数も減少し，危機的状況にある．その中で，大会長が技工学校の非常勤を行っている関係で，120名余り学生の参加があった．将来の技工業界を担う学生に対して，多岐に亘る症例に対してのディスカッションの中から，新しい発想をするきっかけになれは幸いと考える．

（広報委員：山口能正）

Dysphagia Research Society 20th Annual Meeting 報告

2012年3月8日から10日までCanadaのTorontoにて，The 20th Annual Scientific Meeting of the Dysphagia Research Society が開催された．本学会は摂食・嚥下リハビリテーションをメイントピックとした国際学会であり，北米他，アジア・ヨーロッパ等多数の国からspeech-language pathologistを中心に約300名の参加者が見受けられ，会場のRitz-Carltonは大いに賑いを見せた．

学会前日の7日には，post graduate courseが開催され，研究デザインの基礎的な話や，従来の臨床の取り組み，臨床研究のトレンド等について，発表・討論が行われた．翌日から3日間にわたって，一般口頭発表（50題）とポスターセッション（109題）にシンポジウムを交互に織り交ぜながら，活発な質疑応答が行われた．

頭頸部腫瘍関連の発表は14題（内ポスター6題）で，機能訓練効果や嚥下障害関連因子に関する発表などが見られた．日本からの発表演題は，口頭発表1題とポスター発表が28題と，ポスターの4分の1を占めていた．

今回の傾向としては，基礎研究の他，各嚥下障害疾患に対するケースコントロール・スタディについての発表が多く見られ，症例報告が占める割合は少なく感じられた．また，補綴治療や口腔外科関連の歯科的な発表が少なかったことである．

次回は3月14日から16日まで，シアトルにて開催予定である．

（大阪大学大学院：田峰謙一）

2012 年 6 月 1 日発行
日本顎顔面補綴学会

Newsletter No. 15
Maxillofacial Prosthetics

関連学会のご案内

●第 29 回日本顎顔面補綴学会
日　程：6 月 15 日（金）～ 16 日（土）
会　長：田中貴信
会　場：楠元講堂（愛知学院大）
問合せ：愛院大・歯　有床義歯講座
TEL：052-751-7181

●第 2 回特定非営利活動法人日本顎変形症学会
日　程：6 月 18 日（月）～ 19 日（火）
会　長：白土雄司
会　場：福岡国際会議場
問合せ：九大・院・歯口腔顎顔面病態学講座
TEL：092-642-6447／FAX：092-642-6386

●第 25 回日本顎関節学会・学術大会
日　程：7 月 14 日（土）～ 15 日（日）
会　長：柴田考典
会　場：シャトレーゼガトーキングダムサッポロ
問合せ：北海道医療大・歯・組織再建口腔外科学
TEL：0133-23-1429（FAX 同）

●第 17・18 回（共催）日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会
日　程：8 月 31 日（金）～ 9 月 1 日（土）
会　長：（第 17 回）出江紳一（東北大・院・医工）
（第 18 回）鄭　漢忠（北大・院・歯）
会　場：札幌市教育文化会館（札幌市）
問合せ：コンベンションワークス
TEL：011-727-7740／FAX：011-727-7739

●第 34 回日本歯科技工学会学術大会
日　程：9 月 15 日（土）～ 16 日（日）
会　長：窪木拓男
会　場：岡山コンベンションセンター（岡山市）
問合せ：岡山歯科技工士会
TEL：0865-62-5803／FAX：0865-62-5803

●第 42 回日本口腔インプラント学会学術大会
日　程：9 月 21 日（金）～ 23 日（日）
会　長：江藤隆徳
会　場：大阪国際会議場
問合せ：日本口腔インプラント学会
TEL：03-5765-5510／FAX：03-5765-5516

●第 23 回日本咀嚼学会学術大会
日　程：10 月 13 日（土）～ 14 日（日）
会　長：越野　寿
会　場：ACU（札幌市）
問合せ：北海道医療大・歯　咬合再建補綴学
TEL：0133-23-2863（FAX 同）

●第 22 回日本歯科医学会
日　程：11 月 9 日（金）～ 11 日（土）
会　頭：川添堯彬
会　場：大阪国際会議場
問合せ：日本歯科医師会
TEL：03-3262-9214／FAX：03-3262-9885

コンテンツ

PAP ガイドライン Minds 収載 …… 1
平成 23 年度優秀論文賞受賞者の声 …… 2
関連学会報告 …… 3
関連学会のご案内 …… 4

・皆様のご意見をお寄せください.

日本顎顔面補綴学会広報委員会
委員長　松山美和
委　員　関谷秀樹，堀　一浩，中島純子
山口能正
TEL：088-633-9213，FAX：088-633-7898
E-mail：miwa.matsuyama@tokushima-u.ac.jp
〒 770-8504 徳島市蔵本町 3-18-15
徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

〈キリトリ〉